

Reccomend Book 001



今回は書籍の紹介です。卒業式間近の高校生少女7人が学校という小さな社会で織りなす青春群像劇。別れの代名詞である卒業式に加え、「廃校になる」というシチュエーションが加わり、青春度に拍車をかけています。友情、恋愛、夢、後悔、各々の主人公が体験した各々の「さよなら」を舞台に、10代の言葉にできない感情や別れによって変化する姿が、秀逸な情景描写をもとに描かれています。高校生活という人生にとって刹那のような時間でも、別れによって失われるものが大きい程、人は大きく成長する。それは主人公たちが濃密な時間を過ごすことができたから。そんな切なくて美しい瞬間を、この作品を通して垣間見れます。主人公たちはそれぞれ新しい道を歩んでいきますが、高校生活で体験したその瞬間を置き去りにしないという想いが、タイトルに込められているかと思えます。

執筆者：広報 與那覇 滉矢

Event information

2.25

(土) 10:00~16:00

場所：アソシア・ジョブ川西（兵庫県川西市久代 3-16-30）  
「SHIROI SUNAHAMA」今まで関係ないと思っていた地域の福祉施設が、誰でも立ち寄れるコミュニティカフェに。ステキなお店が集まり、浜辺にいるようなやさしい時間と空間を。就労、こどもの発達に関する悩みなど相談できるブースもございます。お気軽にお越しください。  
\*詳細は「アソシア・ジョブ川西」公式 Instagram より

ハローワークに掲載されている障害者求人は障害者手帳をお持ちの方が対象になっております。障害者求人で募集している企業の中には採用者の環境整備の為に、助成金制度を活用しながら支援を行っている企業もあります。では、障害者求人の中から就職活動は行えないのでしょうか。自分に合っている職種や興味のある企業が一般求人しか募集されていないので諦めていいのでしょうか。実はそうではありません。一般求人でも企業へ問い合わせると業務調整できることがあります。また、ハローワークに進捗状況を共有しながら企業側とやりとりをすることで、一般求人でも助成金制度を活用できるなど、求職者にとって可能性が広がることもあります。

以前、私が担当していた利用者さんから警備会社へ就職したいとの希望がありましたが、障害者求人の募集はなかったため、ご本人の意向もあり一般求人から探すことになりました。複数の企業へ問い合わせし断られることもありましたが、前向きなお返事を下さった企業様がありました。利用者さんと私、企業の担当者と丁寧話し合い、「ご本人の人の、アソシアさんがいれば当社もチャレンジしたい」と採用まで辿り着くことができました。当初は障害者求人で探すつもりでしたが、希望する職業ややりたいことに対して真摯に取り組めば、可能性が広がっていくかもしれません。

執筆者：ソーシャルトレーニング 沖繩 波平 英之

障がいのある方の就活は「障害者求人」からしかできない!? そんなことはありません。

企業と働きたい人をつなぐ架け橋、ハローワークを活用した就職活動。採用までに至った企業、支援者、ご本人との話し合いで出た、企業の「チャレンジしたい」という想いと広がった可能性。

Associa Staff

神園 悠人  
所属：アソシア・ジョブ川西

就労継続支援 B 型の独立を志し、アソシアに入社して1年ちょっと。私には B 型に通所している、Apple 社&ガジェット大好きの姉がいます。そんな姉がお金の都合上、大手通信会社から格安 SIM に変更、大好きな iPhone から低価格スマホに変更せざるを得ない姿を近くで見ました。当時、大阪ミナミの BAR で勤務して



いた私は「成果物が同じでも障がいの有無で時給が 10 分の 1 になり得ること」「姉なりに頑張っているのに何かを諦め続ける現実」に対して、なぜ? という疑問をきっかけに福祉の世界に飛び込むことを決めました。「福祉で働いてるってイケてるね!!」と言われる世の中にできるよう、型にはまらない福祉のカタチを創っていきます!!

TAKE FREE



ASSOCIA JOURNAL

February 2023



## 障がいのある人もない人も、社会と福祉の架け橋となる場所でありたい

同世代と同じように、自信をもって「ここで働いている！」と言える就労支援を目指して。

アソシアソーシャルトレーニングでは、一般就労に向けての就労訓練として就労移行支援と、自分にあった無理のないペースで働ける就労継続支援 B 型の2つのサービスを、カフェの運営やお菓子作り、民泊事業の運営を

通して実施しています。沖縄県の北谷町にある「café ASSOCIA」では、明るく開放的な空間が広がる店内で提供しているランチメニューの盛り付けを行ったりするなど、実際のカフェ営業に訓練生が貢献し、実践的な就労訓練に取り組んでいます！また、アソシアソーシャルトレーニングでは店内販売やイベントでの出店用にシフォンケーキの製造 / 販売も行っており、ケーキ作りや包装作業などを通して訓練生も参加しています。さらに、民泊営業では室内の清掃などを中心に就労訓練として利用者の方々に実施していただいています。カフェの営業、シフォンケーキ作り、民泊での作業など、さまざまな訓練をご用意しています。利用当初は「自分で大丈夫かな」「うまくできているか不安」といった声もあり



ますが、訓練を重ねていくうちに、後輩利用者さんに丁寧に業務を教える姿が見られたり、「〇〇の仕事してみたい」といった、これまでになかった訓練生の姿が見られたりするなど、訓練をする中で培った小さな経験の積み重ねがもたらす利用者さん自身の大きな変化を、スタッフ一同が共感、大切にし、利用者さんの「働きたい」という想いに寄り添いながら就労に関するサポートを行なっています。もちろん、就労移行支援においては希望の仕事に就くための目標を就労支援員はじめとするスタッフと一緒に設定し、訓練経での自己理解を通じたかたちで、どんなことが得意でどんなことが苦手なのかを理解したうえで、利用者ご本人の希望や適正にあった就職活動をサポートしています。

カフェも民泊も、障害福祉サービスを利用している訓練生が直接関わっている訓練施設ではす。しかし関わってくれた方々、カフェや民泊を利用してくださるお客様にとって、障がいのある方もない方も自然に行き来し、「美味しい」「落ち着ける」といった空間をご提供しながら、社会と福祉の架け橋となる福祉施設であることを目指しています。ご興味ある方はぜひ一度ご利用ください！

執筆者：ソーシャルトレーニング沖縄  
波平 英之

## 「なんのために働く？」若者の自己決定を促す、アソシア流自己理解メソッド！

兵庫アソシアにも取り入れた「知識」+「体験」による価値ある経験。利用者さんが自ら将来を選択できるように、大切にしていることは何か伝えにきました。



沖縄では県からの委託事業として、高校中退等の困難を抱えている若者が社会で自立した人材となれるよう、キャリア選択などをサポートする事業（キャリア形成支援モデル事業）を行っていると言いました。どんな事業なのでしょう。

- 津嘉山：大枠では自己理解を促進することによって自己決定ができるようになることを支援しています。自己理解するためには利用者さんそれぞれが自身の性格や能力などを理解する必要がありますが、そのために対個人 / 集団でのコミュニケーションを通して自己理解できる場を提供し支援しています。

そこで大切にしていたことを教えてください。  
- 津嘉山：ただ経験を積むのではなくてしっかり自己理解につながるために、知識を得た上で体験してもらう。「知識」「体験」が伴って自分がちゃんと理解した経験になる。そこが大事だったかな。例えば SNS や YouTube で仕事を調べてみる。自分にもできそうだと思う。でも実際に体験すると思っていたのと違った。ということが起こってしまう。それって本当に自分が理解したと言えるのかなって思う。なので実際の経験値としては、体験することが重要だと思い大切にしていました。

### Interview

株式会社アソシア GM  
津嘉山 拡大

兵庫にも取り入れたんですね？

- 津嘉山：兵庫での利用者さんも若かったということもあって、沖縄同様に経験が不足している方が多かったように思います。例えば川西は就労支援ですが、「何のために働くか」が弱い、つまり自己決定のためのアプローチが必要だったように感じました。ある程度経験があれば、その経験値も踏まえて、どんな生活をしたのか、どれくらいの収入を得たいのかなどが出てくるけど、「何のために働くか」「どんな生活でありたいか」といった主体性をまだ持っていない方たちが兵庫にもいたなど。沖縄でもその「何のために」っていう部分を知識習得と体験を何回も繰り返すことで自己理解に繋がって、利用者さんが自分で決定していくことができた。どうなりたいかは多様でいいと思うけど、兵庫でもそうした支援をスタートした方がいいと思い導入しています。

取り入れる際に意識したことはなんですか？

- 津嘉山：沖縄と全く同じようにするのはなくて、利用者さんやその集団の関係性などによって柔軟に対応できるようにすることかな。つまり各事業所とか地域などによってオーダーメイドのプログラムにしていってほしいとは伝えました。

## Column

自信をつけたい、自尊心を高めたい。その為には「力になりたい誰か」を探すのがいいかもしれません。～自己有用感とは？～

自己有用感という言葉は聞いたことありますでしょうか？書店に行っても“自己肯定感をあげよう”、“自信をつけよう”という本はありますが“自己有用感”というのはなかなか無く、聞き慣れないかと思います。この自己有用感について少し書きたいと思います。

私がいる事業所（生活訓練）では10～20代の方を対象に同世代と様々な活動を通し「働く理由」を探していこう！という取り組みを行なっています。これまで多くの卒業生が社会に旅立っており、就職、進学、就労支援など進路は様々です。時々、卒業生が相談に来る事がありますが、その中で「仕事が続かない」「働いていてもやりがいを感じない」という相談を受けることもあります。色々な方の声を聞いているとある共通点が見つかりました。それこそが“自己有用感”でした。

自己有用感とは、誰か（何か）の役に立ちたい（立っている）という感覚です。自己有用感は一で感じる事ができず、必ず自分以外の他者という存在が必要になってきます。これが働く事で自身の存在価値を感じる事ができたり、自信をつけたり自尊感情が高まる土台にもなると言われています。

自尊感情を高めたり、自信をつけていく前に自己有用感を“育む”ことから取り組むものいいかもしれませんね。

執筆者：ホイスコーレ沖縄 安里 強平



アソシアに行く前はバイトで上手くなじめなかったり、だらけた生活となったりして、就職の内定は決まっていたがその後の不安もあり、アソシアに行くことを決めました。

ここでは利用者の皆さんと放課後に話をする中で、不安や悩みも自分と一緒になんだと思えました。また、ここでの活動を通してお互いに共通項があったり、職業に関する悩みや迷いをたくさん話したりすることもできました。そうした環境があるため、自分にとって頑張る理由になり、今踏ん張ることもできています。通うことで少し楽観的になれた気がしていて、精神的な安定にも繋がっていると感じます。今後は、どこでも可愛がってもらえるような笑顔と人柄であることを目指し、新たな人間関係を積極的に築くことができるようになりたいです。

協力：ホイスコーレ神戸 利用・Sさん（22歳）